

豊明市様 令和4年度一般介護予防事業評価事業 事業報告書

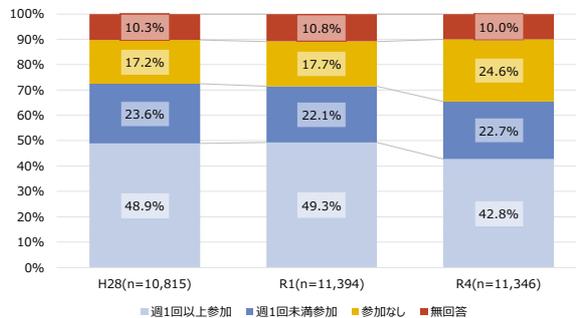
2023年4月14日初稿
2023年9月1日修正版
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所

基本目標 1：健康寿命を延伸する

目標 1-1：自らの心身機能の維持向上に繋がる多様な活動への参加頻度が上がる

指標 1：多様な活動に週1回以上参加している市民の数

- ✓ 地域活動や就労などの活動のいずれかに週に1回以上参加している市民は42.8%。
- ✓ 週1回未満（年に数回～月3回）は22.7%、いずれの活動にも参加していない市民は24.6%。
- ✓ 令和元年度と比較すると、「週1回以上参加」が6.5ポイント減少、「参加なし」が6.9ポイント増加。



出典：豊明市住民健康実態調査（平成28年度、令和元年度、令和4年度）
算出方法：ボランティア活動、スポーツ関係のグループやクラブ、趣味関係のグループ、学習・教養サークル、まちかど運動教室・健康マージャン・地域サロンなどの介護予防のための集まり、老人クラブ、区・町内会・班、収入のある仕事のいずれかにおいて週1回以上参加していれば、多様な活動への週1回以上の参加「あり」として計算。
備考：平成28年度は「まちかど運動教室・健康マージャン・地域サロンなどの介護予防のための集まり」の設問項目はなかった。

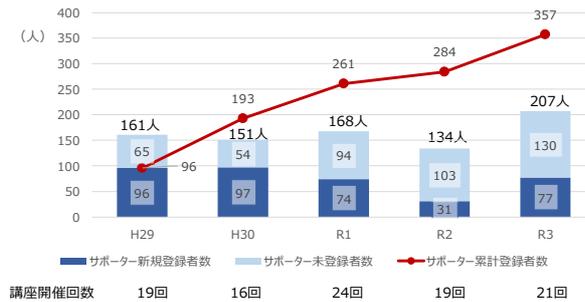
基本目標 1：健康寿命を延伸する

目標 1-1：自らの心身機能の維持向上に繋がる多様な活動への参加頻度が上がる

指標 3：おたがいさまセンターちゃっとの参加者数

- ✓ サポーター候補を対象に開催するおたがいさま講座の参加者数は令和2年度にいったん減少したが、令和3年度には増加した。
- ✓ 講座参加者のうち、新規でサポーターに登録した者の割合は令和2年度まで減少傾向にあったが、令和3年度には前年度より増えて37.2%となった。

■おたがいさま講座参加者数、新規登録サポーター数、ならびに累計サポーター数



※豊明市提供による活動実績を集計

基本目標 1：健康寿命を延伸する

目標 1-1：自らの心身機能の維持向上に繋がる多様な活動への参加頻度が上がる

指標 4：高齢者ボランティアポイントの参加者数

- ✓ ボランティアポイントの会員数は、平成24年の開始時と比較して令和3年度は4.2倍に増加している。
- ✓ うち、シール貼付活動に実際に関わった会員（実活動員数）、ならびにシールの添付数については、いずれも令和元年まで順調に増加した後、令和2年にいったん減少に転じた。令和3年度にはふたたび増加傾向に戻っている。

■ボランティアポイント会員数、うち実活動員数、シール貼付数の推移



※豊明市提供による活動実績を集計

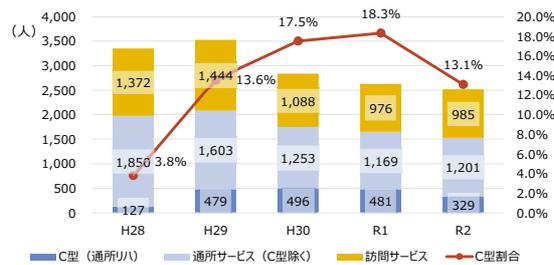
基本目標 1：健康寿命を延伸する

目標 1-2：獲得目標と達成期間が明確になった課題解決型のサービス提供になる

指標 1：要支援者の通所・訪問サービス利用者に占めるC型サービスの利用割合

- ✓ C型サービスの利用者は、開始年度を除く平成29年度から令和元年度まで、概ね毎年延べ480人前後がサービスを受けていたが、令和2年度は延べ329人に減少している。
- ✓ 通所・訪問サービス利用者の合計は、開始2年目の平成29年度をピークとして減少している。このため、通所・訪問サービス利用者に占めるC型サービスの利用者の割合は、総合事業の開始から令和元年度までは増加していたが、令和2年度はC型サービスの利用者数が大きく減少したために、割合も低下した。

■ 要支援者の通所・訪問サービス利用者に占めるC型サービス参加者数、ならびに割合



※豊明市提供による活動実績を集計

※各年の件数は各月の給付件数の合計であるため、実人数ではなく延べ人数である。

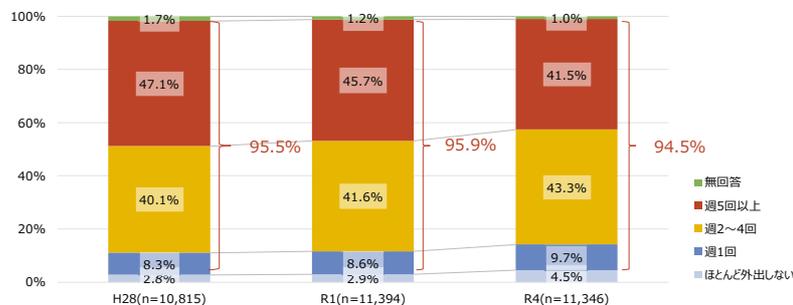
基本目標 1：健康寿命を延伸する

目標 1-4：生きる意欲が高まり毎日やることがあり生活が活動的になる

指標 1：週1回以上外出している市民の割合

- ✓ 65歳以上の高齢者のうち、週1回以上外出している高齢者の割合は約95%である。
- ✓ 平成28年度調査から令和4年度調査にかけて、結果の傾向にはほとんど差異がない。

■ 週1回以上外出している市民の割合



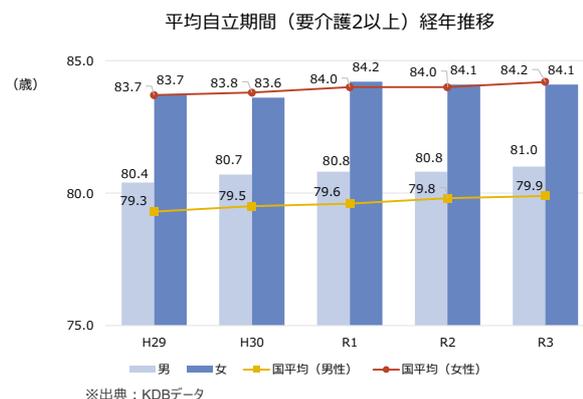
※出典：平成28年住民健康実態調査、令和元年住民健康実態調査、令和4年住民健康実態調査

基本目標 1：健康寿命を延伸する

目標 1-5：要介護認定を受けるまでの年齢を遅らせる

指標 1：健康寿命・平均自立期間

- ✓ 女性の平均自立期間は国平均とほとんど同数値である一方、男性の平均自立期間は国平均と比較して1.0年から1.2年長い。

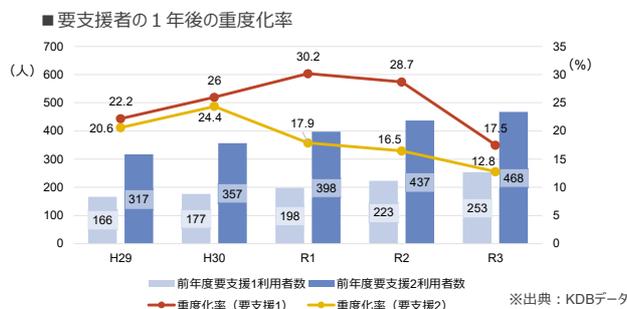


基本目標 1：健康寿命を延伸する

目標 1-6：身体機能の回復・維持

指標 1：要支援認定者の1年後の重度化率

- ✓ 新規で要介護1と認定された高齢者の1年後の重度化率は、令和元年度の30.2%をピークとして、令和2年度、3年度と低下している。
- ✓ 新規で要介護2と認定された高齢者の1年後の重度化率は、平成30年度の24.4%をピークとして、令和元年度以降漸減している。

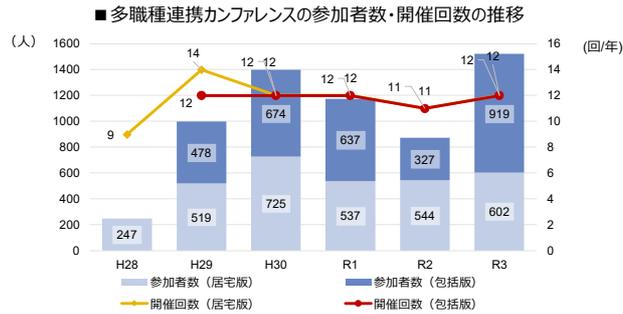


基本目標 3： 地域でふつに暮らせるしきを強化する

目標 3-1： 困難を抱えた高齢者の暮らし困りごとに対する理解・洞察から 未解決な地域の課題を把握し多様な主体で共有する

指標 1： 多職種合同ケアカンファレンス参加者数

- ✓ 多職種合同ケアカンファレンスの年間累計参加者数は令和3年度の包括版の会議が最多の919名である。
- ✓ 開催回数は平成30年度以降、包括版も居宅版も年間12回前後で推移している。
- ✓ 参加者数は平成30年度から令和2年度にかけて漸減していたが、令和3年度には特に包括版の参加者が大幅に増えて、過去最高の参加者数となった。



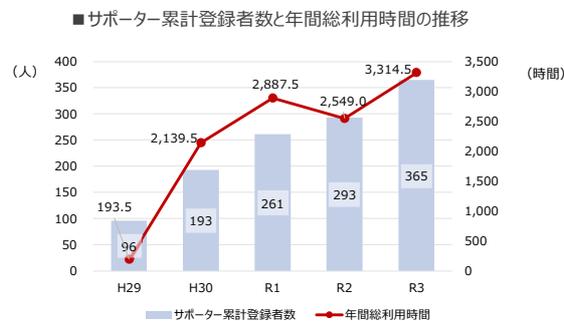
※ 豊明市提供による活動実績を集計
 ※ 「包括版」：地域包括支援センターが担当する要支援者のケース、「居宅版」：市内の居宅介護支援事業所が担当する要介護者のケース

基本目標 3： 地域でふつに暮らせるしきを強化する

目標 3-2： 困難を抱えた高齢者の暮らしを支える地域の関係者が増える

指標 1： おたがいさまセンターちゃっとのサポーター数・活動時間

- ✓ 累計登録者数は、開始年度の平成29年度と比較すると令和3年度には4倍近くに増加した。
- ✓ サポーターの総活動時間は開始以来令和3年度までおおむね増加傾向にある。



※ ちゃっとによるサポートはH29.11.9に開始

※ 豊明市提供による活動実績を集計

基本目標 3 : 地域でふつうに暮らせるしきみを強化する
目標 3-3 : 心身・認知機能の低下により発生するニーズを発信できる
(支援者が把握することができる)

指標 1 : おたがいさまセンターチャットの利用者数・利用時間

- ✓ チャットの年間利用者数（延べ人数）、ならびに年間の総利用時間については、令和2年度に漸減しているものの、増加傾向にある。

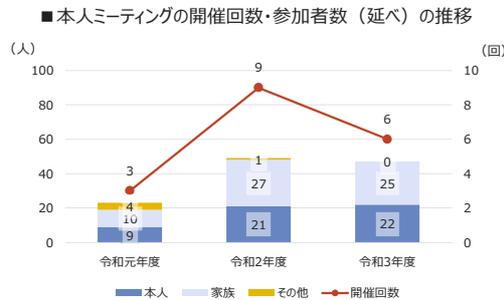


※ 利用件数と年間利用者数（延べ人数）は同数
 ※ チャットによるサポートはH29.11.9に開始
 ※ 豊明市提供による活動実績を集計

基本目標 3 : 地域でふつうに暮らせるしきみを強化する
目標 3-3 : 心身・認知機能の低下により発生するニーズを発信できる
(支援者が把握することができる)

指標 2 : 本人ミーティングの参加者数（活動実績）

- ✓ 本人ミーティングの参加者数は令和元年度は23人、令和2年度は49人、令和3年度は47人であった。
- ✓ 本人ミーティングの開催回数は令和元年度は3回、令和2年度は9回、令和3年度は6回であった。
 ※令和元年度は令和元年11月7日以降の集計値



※令和元年11月7日のプレミーティングを含む。開始は令和2年1月7日
 ※令和3年度は令和4年2月と3月に各1回の開催を予定していたが中止となった。
 ※ 豊明市提供による活動実績を集計

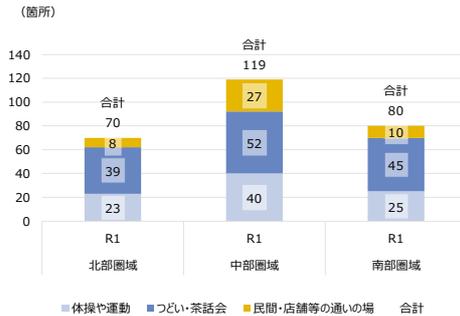
基本目標3：地域でふつうに暮らせるしきみを強化する

目標3-4：高齢者の暮らしを支えるフォーマル・インフォーマルサービスが充実する

指標1：要支援者が活用できるインフォーマルな通いの場、生活支援の数

- ✓ 圏域ごとの地域資源（通いの場）の数は、令和元年度には、北部圏域に70か所、中部圏域に119か所、南部圏域に80か所ある。

■ 圏域ごとの地域資源（通いの場）の数



出典：豊明市 第8期高齢者福祉・介護保険事業計画（図表39、図表42、図表45）

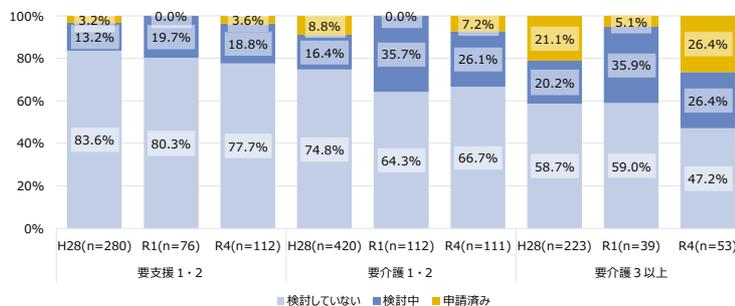
基本目標3：地域でふつうに暮らせるしきみを強化する

目標3-5：認知症になっても要介護状態になっても本人の意思が尊重され権利が守られる

指標1：施設入所検討率

- ✓ 施設入所を「検討していない」割合は、要支援1・2では漸減傾向にあり、要介護1・2は令和元年度より2.4ポイント増えて横ばい傾向になっている一方、要介護3以上では令和元年度から11.8ポイント減少した。※調査の実施方法等が異なることに留意が必要。

■ 施設等の検討状況 在宅介護実態調査



出典 (R4)：豊明市第9期在宅介護実態調査（本人・家族介護者対象）
 出典 (R1)：豊明市第8期在宅介護実態調査（家族介護者対象）
 出典 (H28)：豊明市 第7期高齢者福祉計画・介護保険事業策定にかかる二週調査報告書（在宅介護実態調査）

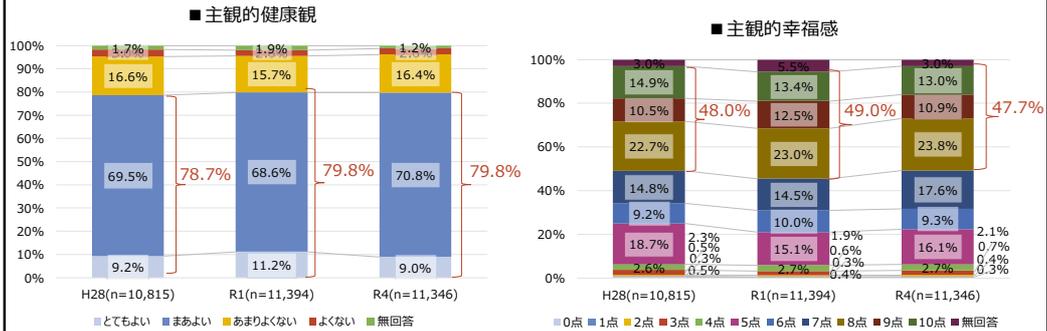
※比較時の留意事項
 ①調査実施方法の差
 H28、R4：郵送配布（本人または家族が回答）。
 R1：認定調査時に同席した家族介護者が回答。
 ②無回答を除いて集計していること、またその算出方法の差
 H28：調査報告書に掲載されている割合（%）から実数を再計算し、無回答を除いた割合を算出した。
 R1・R4：元データを集計

基本目標 3 : 地域でふつうに暮らせるしきみを強化する

目標 3-6 : ふつうに暮らせるしあわせ (well-being)

指標 1 : 主観的健康観・主観的幸福感

- ✓ 主観的な健康観について「とてもよい」と「まあよい」を合わせた回答の割合は、平成28年度以降令和4年度までほぼ80%であった。
- ✓ 主観的な幸福感を10点満点中8点以上と回答した割合は、平成28年度以降令和4年度までほぼ50%であった。



※出典：平成28年住民健康実態調査、令和元年住民健康実態調査、令和4年住民健康実態調査